

第24回思春期心の講演会、相談会

デイナイトケアにおける 思春期症例の通所状況

医療法人耕仁会札幌太田病院 1階デイナイトケア

○小林紗香（精神保健福祉士） 後藤幸枝（作業療法士）
神廣憲記（医師）

デイナイトケアとは



9時～15時半



16時～20時

デイケア

ナイトケア

デイナイトケア



ティーンズ



院内学校

はじめに

- ◆最近では思春期プログラムに興味を持つ**患者が不登校を中心に増加**してきた。



継続例



中断例

- ◆不登校事例における将来の社会的自立に向けた支援が重要。（文部科学省）

- ◆デイナイトケア通所継続のメリット

社会性を育む機会

教科学習の機会

研究の目的

通所継続の可否に関係する要因には何があるのか？

継続に向けて、より丁寧な支援ができたのでは？



- ◆ 通所継続の可否を左右する要因を整理することで支援のあり方を考える
- ◆ 今回は要因を調査する準備として、どのような思春期患者がデイナイトケアに通所しているのかを把握することを目的とした。

研究方法

◆期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

◆対象：上記期間中に1階デイナイトケアを体験・通所した思春期症例（11例）

◆方法：調査項目9項目を後方視的に診療録調査

○性別

○通所開始時年齢

○診断名

○通所目的の有無

○登校状況

○利用回数

○在籍日数

○両親との同居の有無

○中断の有無

用語の定義

◆不登校

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの（文部科学省）

◆中断

明確な理由なく、1か月以上通所がないこと

受験やアルバイトなど
社会的理由

新型コロナウイルス感
染対策など時事的理由

調査結果 ～症例の概要～

性別	年齢	診断名	通所の目的	登校状況	中断の有無	利用回数	在籍日数	両親との同居の有無
1 女	10代前半	適応障害	勉強の場	不登校	継続	20	203	無し
2 男	10代後半	中等度うつ病 エピソード	対人能力向上	通信制高校	継続	32	273	母と同居
3 女	10代前半	中等度うつ病 エピソード	居場所作り	不登校	継続	5	56	母と同居
4 男	10代後半	適応障害	居場所作り	通信制高校	継続	86	300	両親と同居
5 女	10代後半	適応障害	居場所作り	通信制高校	継続	83	416	両親と同居
6 男	10代後半	適応障害	居場所作り	通信制高校	継続	80	581	母と同居
7 女	10代後半	適応障害	居場所作り	不登校	中断	27	266	母と同居
8 女	10代前半	適応障害	プログラム	不登校	中断	14	286	父と同居
9 男	10代前半	習慣および衝動の障害	ゲーム依存対策の学習	不登校	中断	15	316	母と同居
10 男	10代前半	学校恐怖症	勉強の場	不登校	中断	7	56	母と同居
11 男	10代後半	醜形恐怖症	なし	通信制高校	中断	3	196	両親と同居

中断群には
不登校の症例が
多い

調査結果 ～2群の比較～

居場所作り、対人能力
向上などの通所目的

	男女比	平均年齢 (歳)	目的有りの 割合 (%)	<u>不登校</u> <u>(%)</u>	<u>平均利用</u> <u>回数(回)</u>	平均在籍 日数(日)	単親家庭・ 両親不在 (%)
継続群	3 : 3	16	100	33.3	51	304.8	66.6
中断群	3 : 2	14.6	80	80	13.2	224	80

- ◆男女比、目的の有無、単身・両親不在の割合は大きな差は見られない
- ◆不登校の割合が中断群の方が高い
- ◆利用回数が中断群の方が少ない

調査結果 ～診断名～

継続群

- ◆中等度うつ病エピソード・・・2例
- ◆双極性障害・・・1例
- ◆統合失調症・・・1例
- ◆適応障害・・・1例
- ◆自閉症・・・1例

様々な精神疾患
を有する

中断群

- ◆学校恐怖症・・・2例
- ◆習慣および衝動の障害・・・1例
- ◆醜形恐怖症・・・1例
- ◆双極性障害・・・1例

考察

◆疾患は中等度うつ病エピソードや学校恐怖症など様々

◆不登校の割合が中断群の方が高い

不登校は集団参加の機会が少ないため、特に導入期にはプログラム参加だけでなく個別対応が重要と考えられる

◆家族背景は単親家庭または両親と同居していない患者が全体の72.7%を占めていることがわかった

不安や悩みについてより丁寧に聞き取った上で親子への介入や支援が求められる

研究の限界

- ◆ 調査項目とした9項目以外にも通所継続の可否を左右する要因となり得る項目を調査できていない可能性がある。

参考文献

◆木下弘基、奥山玲子、河合健彦、鎌田隼輔：不登校症例の後方視的調査から考える児童・思春期デイケアの役割，児童青年精神医学とその近接領域 58（3）：398-408, 2017

◆文部科学省.” 不登校の現状に関する認識”

.https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/.futoukou/03070701/002.pdf. (参照2022-5-9)

◆文部科学省.” 令和2年度 家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査～”

.2021.https://www.mext.go.jp/content/20210301-mex_chisui02-000098302_1.pdf. (参照2022-5-27)

ご清聴ありがとうございました。